

中齋塾 東京フォーラム 平成27年度 第6回講話

平成27年6月13日
於 湯島聖堂

前回「永井荷風の特集」というお話を伺った時に行ってみたいなと思い、下町芸能大学にお邪魔を致しました。なかなか面白かったです。今日の素読を聞きながら思い出しておりました。

面白かったのは、新内・幫間芸・朗読。朗読は若い女性がしてくれたけれど聞いている内に心地よく、お腹がいっぱいだったもので、ついうとうと寝てしまいました。その後、新内と幫間芸を男性が致しました。そうすると目がバチッと開いてしまいました。座敷でやるものを、よくまあ舞台の上でやるものだなと思って感心して見させてもらいました。新内を聞いていますと、上手な方は男性と女性の声色を使い分けています。聞いていて思いましたが、やっぱり読み方は、その人の芸と違いますか独特の味がありますね。

論語の視点

私が中齋塾フォーラムで行っている素読の読み方は基本形です。

基本形は「。」で一回止め、それから「、」でも止めています。そのほうが読む方も読みやすいし、聞く方も聞きやすい。そのうち自分で味付けをすれば良いと思います。親切になってくると皆さんに合わせてながら、特に初めての方がいるようであれば、句読点できっちり区切るようになると思います。ただ自分の世界に入って読んでいたら、「人のことなんか知っちゃいないよ」という感じがします。昨日聞いていたものも、声色は聞き惚れるような形でした。

素読論語も読むことに必死でやりますと白紙状態になります。人のことなんか気にしないで、自分のことだけに一所懸命です。寛容であれば、それになるべく合わせて、スッとその世界に入ろうとする。芸が達者になればなるほど自分の世界にスッと入ってくるとお考えください。自分の世界に引っ張りこもうと思ったら、ちょっと枕を振っておくとそういうふうに入れます。で、振っておかないと戸惑うけれど、上手な人はスッと入ってくる。

<子路第十三>

【二〇】子貢 問いて曰く、如何なるを斯れ之を士と謂うべきと。子曰く、己を行うに恥有り、四方に使用して君命を辱めざるを、士と謂うべしと。曰く、敢て其の次を問うと。曰

く、宗族 孝を称し、郷党 弟を証すと。曰く、敢て其の次を問うと。曰く、言は必ず信あり、行は必ず果す。硜硜然として小人なるかな。抑も亦 以て次と為すべしと。曰く、今の政に従う者は如何と。子曰く、噓、斗筭の人、何ぞ算うるに足らんやと。

「子貢問いて曰く、如何なるを斯れ之を士と謂うべきと」子貢は才氣煥発で目から鼻に抜けるような人で、儲けるのも上手、口八丁手八丁。若くて才走った感じでしょう。

その子貢が「どういう人なら士と呼べますか」と聞きました。

孔子は、あちこち放浪して自分の意見を色々な諸侯に進言しては、何も受け入れてくれないので、がっかりして魯の国へ帰ってきた頃、だいたい68歳くらいでしょう。くたびれて、絶望している頃でしょう。

「己を行うに恥有り、四方に使用して君命を辱めざるを、士と謂うべしと」と、恥を知り他国に使者として赴いた際に君主の名誉を傷つけないと孔子が話しています。ですからその時は手柄を気にしてはいません。「曰く、敢て其の次を問うと」と、子貢が聞いています。

宗族は親族のことです。郷党は郷里の人。宗族というのは、孔子の子孫が1万人越しているという感覚でいくと「宗族 孝を称し、郷党 弟を証すと」先祖が一緒に顔と名前の分かる親戚。これから世の中に出て、知らない所で親戚がたくさん出てきて、分家だとかを全部ひっくるめても宗族です。なので、家族・親戚中から孝行者と褒められ、郷里の人から年上を敬うと褒められる。

「曰く、敢て其の次を問うと」また子貢が聞いたので、孔子は「言は必ず信あり、行は必ず果す。硜硜然として小人なるかな」硜硜然は角張っている、頑固者。言葉に嘘がなく、行動も最後までやり通すが、頑固者で、ちょっと困った存在。

「抑も亦以て次と為すべしと。曰く、今の政に従う者は如何と」と、子貢が近頃の政治家について聞きました。ここら辺で、今の政治家や与党・野党を考えるとよいでしょう。孔子が今の与党、野党を見たらこう言ったのではないかなと思って見てみましょう。孔子が言うのには「ああ、後世も同じようなものであろう。お隣の国の日本では安倍…何とやらという者が総理をやっておると聞くが「斗筭の人、何ぞ算うるに足らんやと」器量の小さい人ばかりで、数えるに足りないよ」と。お話にならない人達だねと話しているのではないかと感じます。

今日は形が変わりましたので、変わりついでに時事評論にいきます。

時事評論

6月13日（土）の読売新聞の見出しですが「高齢者5歳から10歳若返り」日本老年学会は

12日、65歳以上の高齢者の体が知的機能で健康状態についての分析結果を発表した。最新の科学データを総合すると、現在の高齢者は10年～20年前に比べて5歳から10歳は若返っていると想定される評価という記事です。

なぜ今更こんなことを言うのかと思いました。「65歳以上の高齢者…」何度も言うお腹が立ってきます。特に年金関係の葉書には60歳以上の高齢者と書いてあります。御覧になると分かりますが「60歳以上の」まではいいけど、高齢者はないだろと思います。高齢者のほうが、まだましではないでしょうか。これは反撥を受けるので新聞はちゃんと直しています。それから、この分析結果とか最近の科学データを総合すると…よく言うなと思います。これは大本営発表そのまま書いているだけだと感じます。

昨年、地元の市役所が、これから高齢者になる方へ体操を教えます、とあったので応募しさっそく行ってきました。その時やった事と、ここに書いてある事は同じです。だからたいした事はやっていません。何であれが最終科学データかと思いますが、それでもやらないよりは、やったほうがましだと思います。しかも「10歳若返り」と書かれると、少なくとも65歳以上の人はホッとすると思います。これは読んでいて気分が良くなりました。

木内信胤先生が「日本には縄文時代、1万6千年前から大八島に日本民族は住み着いていたんだね、これは嬉しいニュースだね」と言われたことを、ふっと思い出しました。

ちょっとでも楽しいな嬉しいなと思うことがあったら、広げていく。そうすると楽しいことが続く可能性が高い。不愉快なことがあっても忘れてしまうと思いました。たまには新聞も気分の良いことを書くもんだと感じました。

ついでに紙面をひっくり返すと、「年金機構を語ってお年寄りが騙される詐欺」がありました。テレビ等でやっていますから、ご存知の通りだと思います。個人情報流出、年金機構から電話があり70歳代の女性がキャッシュカード4枚を騙し取られ300万円引き出されたと書いてあります。これは昨日けっこう報道されていました。ただ、こう読むと「そんな馬鹿なことは私には起きない」と思っている人程やられると私は感じます。ひとつひとつ手口を聞いていると、おやっと思うようなことがあります。

(中谷会員) オレオレ詐欺、掛かってきました。

どんなふうに掛かってきましたか？

(中谷会員) 「助けてよ」みたいな感じで、若い男の声で掛かってきましたが、でもその時は本人が居たので…

それじゃ犯人側は駄目だね。もし本人が居ないと、びっくりしますね。人間を騙す時のことも論語の中に書いてあります。

相手に考える隙を与えず急にびっくり仰天させて、「今100万円無いと殺される」みたいなことを言い、でも何故か「99万円は友達から借りたが、あと1万円足りない。急いで1万円を持って来てくれ。すぐ家の側に居るから」と言われたら、急いで1万円を持って行ってしまおうというようなことを論語で教えています。どこに書いてあるかはどうぞお探してください。

恒例の質問

・昨日 1 日、嘘をつかなかった方

嘘をついたかつかないか、夜寝る時に検証すると良いです。嘘をつかなかったなと思うときっぱりして眠れます。若干、心の咎めるような嘘をついた場合は、何か寝つけないですね。ところが人の為になるような嘘はホッとして眠れる。ですから嘘も色々お使いいただくとうよろしいでしょう。

・昨日 1 日、有難うと言ひ、有難うと言われた方

最近、有難うと言われることが減ってきているなと思ひまして、考えてみたら人と話をしていない。人と交わらないと「有難う」と言われぬ。意識して家内と一緒に外食したり、色々とお出掛けすることを意識しています。私はちょっと先に行ってドアを開けたり閉めたりすると「すみませんね」と言う。「すみませんね」と言うのは「有難う」ですから、ちょっと「有難う」のニュアンスとは意味は違ひますけれども、そういうことで確実に返ってきます。「すみません」の方が少し意味は広いですね。

・健康法を実践した方

最近、公民館に行ったら 30 歳前後の人が、健康法をやっていますというので、「何をやっているの」と聞いたら「スクワットです」と言うので、見せて貰ったら実に楽なスクワットをやっていました。ですのでジャイアント馬場が黒柳徹子に教えたスクワットをやってみました。足を肩幅よりちょっと広げて、背中を丸めないで膝をつま先より前に出さず、ずっと下まで下ろして上げる。上げた時にはピンと立たないでちょっと曲がったままです。これ意外ともたないです。好き勝手な自己流でスクワットをやっている時は軽くいきます。

やっぱり何でも一回は基本から習っておかないと危ないなと感じました。健康法も自己流でやっておられる方は、ほんのちょっとしたところでコツがちょっと違ひますから、その道の専門家に一回は聞いて確認を取り、話を聞かれると良いと思ひます。

・寝る時に明日を過去形でイメージ出来た方

明日を過去形でイメージできる人は大金持ちになるタイプの人、中金持ちになるタイプの人、小金持ちになるタイプの人、これが明日を過去形でイメージできる人達と一括りになる。

生きていく上でお金が要らないという時代が、これから来ると思ひますので、その時代まで淡々と生きていけると思えば、別に明日を過去形でイメージする必要はありません。

この間、中斎塾フォーラムの上田監事と話をしたら、税金を 1 円も払わないことに執念

を燃やしていました。色々と研究をし手を打って、これで税金は払わないで済むと思ったら、市民税・県民税がきた。これを払わないためにはどうしたらいいかと役所に掛けあつたら「年収 38 万円以下であれば払わなくてよいです」と言われた。それは難しい苦しい。それで色々と研究をしたら、税込みで年収 400 万ぐらいまでは税金を払わなくてよいと発見できた。彼は一所懸命に計算して、実践体験でやっているから信用できます。

何回か言っていますが、今の時代はボーダーラインが 200 万。以前は 200 万円以下の低所得者という言い方の政府関係の人は多かった。最近は 200 万円以上の中所得者という言い方になってきました。200 万円は 1 つのボーダーラインで、そこにめがけて中流がなだれ込んで来ているのが現状です。調べたら、年収が 4 千万以上の人に対しては今年から所得税が 5%上がっていますから、所得税が 45%、住民税が 10%それから消費税などの間接税を全部ひくくると、実感で 6 割が税金だと感じます。

そういうことも気にしないでお金が集まってくる人達は、明日を過去形でイメージして眠る習慣のある人達ということになります。

- ・ 昨晚、明日を過去形でイメージして眠った方
聞き方を変えたら、手の挙がり方が少なくなりました。

- ・ 今年に入ってから 1 回でも自分磨きをした実感のある方
実感があるということは良いことだと思います。

比田井副理事長から『103 歳になって分かった事』という本を見せて頂きました。103 歳になって何を考えるのかなと確かに興味がある。こういう感覚の本が最近増えています。比田井さんから、ご紹介をしてください。

(比田井副理事長) ちょっとお時間をいただきます。本屋へ入った時に、この本が目につきました。何故かと申しますと、皆さん御存知だとは思いますが、この篠田桃江さんは世界的な芸術家です。絵も描くし書も書きます。独身で一回も結婚したことがないそうです。

私は今、唯識学の講義を受けています。103 歳になったら、どんなことを考え、いつも何を思っているのか、また興味があるのかと思いました。そして著者は死ということを考えたことがなく自由奔放に生きている。好きなことを好きなようにやらせていただいている。それから世の中には良いとか悪いとかは無いと言っていました。そんなものは全部自分で判断しなさいという事が書いてありました。やっぱり 103 歳になると色々な意味で、自分の生き方というのは、どう生きてきたかということが全部入っています。もしお時間があれば是非お買いになって読んでみてください。

紹介書籍

『アースダンス』 エリザベット・サトゥリス著 (株) バベルプレス

ガイア理論についての話。本は分厚いですが、中身はそんなに分厚いものではない。ガイア理論、地球の理論です。今は地球が 6 回目の種の絶滅が起こっているという実感を科学者達は持っているそうです。そこから抜け出すためには、どうしたらよいかを必死に科学者達は考えているということでした。今、人間は自然を死滅させようとしている。ひとつの種族である人間が地球を滅ぼそうとしている話です。

『アースダンス』のエキスはレジメに書いてありますから、どうぞゆっくりお読みください。

6 千万年前に隕石が墜落したことで種の絶滅、恐竜は絶滅したと書いてありますが、よくそういうことが分かるものだなあと感じます。思いますと言うよりは感じますと言った方が正解でしょうか。

テーマ

科学者たちの認識 (5. ガイア理論→地球上で 6 回目の大規模な種の絶滅)

今年のテーマは「日本の社会が崩壊しつつある」ということを多角的に多面的に見る。そういうことをレジメに書いてあります。

1 月は「人は、その性格に合った事件にしか出会わない」城山三郎さんが、渋澤栄一さんの人物評をした時の科白です。

仮にエベレストに行きたいと思っても、なかなか多くの人には行かない人ばかりだと思いますが、やっぱり行っている人はいます。なぜ行くのでしょうか。その人が、そういう性格だからだと思います。そういう性格の人だから、そういう人達と付き合う。付き合った結果、良い人に出会うと次々に良い縁が良い縁を生んで来る。その中でちょっと邪まな考えをもって邪まな人と会っていると、どんどん横道に入っていくから、なるべく良い縁でいきましょう。

自分に何故こんな事件が次から次に来るのか、何で私だけこんな不幸な事になるのかみたいなことを考える人が多い。私も何でと思うことはあります。

「その人の性格に合った事件にしか出会わない」は、ひとつの名言だと思いますので、これは味わった方がいいと思います。何で私がこんな事に巻き込まれなければいけないのと思ったら、どこかにやっぱり自分自身そういう種があるのではないかと考えてみる必要があります。

日本の国を救いたいと思う総理大臣が生まれて、そういう方向へ日本を導いて行く。人類を崩壊から救おうと思う各国の大統領がぞくぞくと誕生してこない、これから先はきつかりしたいと思います。

その後は、医療制度、飢餓、金融危機、重税国家、種の絶滅と続いてきていますけれども何のことはない、我々日本の社会が駄目になると思ったけれども、日本の社会だけではなくて世界全体だという視点が広がった。

人類だけじゃない、地球規模の絶滅が来ているということでございますので、なるほど今は地球規模でそういう状況に来ているのだったら、人類がとか、日本がとか、これは当たり前前の話ということで申し上げておきます。

時々、テーマ 1 つ 1 つ見直しをしておかなければいけないと思うので、もう一度見直しをさせていただきます。

「人間社会の崩壊と医療制度」これはオバマケアです。どうしてもこのオバマケアはオレゴン州しか頭に残りません。

私は自分でやらせて頂いている老人ホームを考えると、やっぱりどうみても、待遇、お給料が少ない。政府が色々な解釈をするから、中で働く人達は、なかなか人が集まらないし、思うようにはいかない。介護の世界は、負のスパイラルが始まっています。その行き着くところはオレゴン州かなと感じます。これが日本にも来るような気がします。ただ日本に来る場合には、人間が介護をする者とロボットが介護をする者とが並走するようになると思います。ちなみに私の関係している老人ホームは、パルロというロボットが入りました。ロボットを置くと皆さんが来て、時間があつという間に経つみたいです。なおかつ、その人のことを覚えてくれて会話をしてくれる。

ロボットのことが気になったので、ハウステンボスに「変なホテル」というホテルがオープンしたら行きたいと思っています。チェックインは全部ロボットが対応して荷物を選別し部屋に持って行く。ボーイさんの仕事からフロントの仕事を全部やってくれるということです、それだけを見にハウステンボスへ行ってみたいと思いました。どんどん身近なところでロボット化が始まってきます。

日本は、7割方から8割ぐらい人の手でやっています。残り2割~3割はロボットが進むと思っています。

それで「飢餓」私は歴史的に見て、少なくとも1千万人以上の国民が亡くなったという事例をいくつか調べたいという気になりました。これも1つのテーマになってきました。特に飢えで死んだところ、日本の場合であれば飢えで死んだ村です。日本の飢餓社会が出現したものは、どういうもので、どう対応したか。一番近いものではサツマイモで生き延

びたとあるから、私はサツマイモに力を入れていますが、これからの日本は確実に飢えが来ます。その対処対策は、今1人1人がしなくてはならないと感じています。

それから「人間社会の崩壊と金融危機」、これは何度も申し上げますけれども、お金で物が買える時代は終わりましたし、株式でとんでもないお金が動いているのも終わったと感じています。これは金利という仕組みが、お金を生まなくなっています。金融危機が起きるでしょう。『資本主義の終焉』という本が新書であります。これも色々と詳しい。それぞれの国、市が循環型社会で生きていく、これが普通のスタイルになるでしょう。

最近ある警備会社でガードマンを食った会社がありました。よくあんなことをやるなどと思いますが、この会社は何でこんなに利益を上げているのか不思議だと思って調べたら、子会社が、どこからか引っ張ってきたホームレスを集めて二段三段ベッドに詰め込んで、稼いだ部分のかなりの金額を部屋代・食事代で巻き上げる。ホームレスから生活保護費をかき集める人達と同じような手法を使っていた。一見、この会社は利益率が良く、大手金融機関、税務署なんかは、利益率の良い会社は素晴らしいと誉めるわけです。ひと皮捲ってみたら、まあ酷いことをやっているということが巷に溢れています。それが資本主義のひとつの形とみえますが、決して他の国だけではなくて日本でも起きています。

今、申し上げてきたものは、みなミクロです。マクロで眺める視点も、我々は段々必要になってきました。

マクロで眺めると、佐藤一斎が、師を選びなさい。第一は天地・自然を師とせよ。第二は重厚なる人物を師とせよ。第三は良書、素晴らしき書を師とせよという言い方をしました。

それから考えると、「天地自然を師とせよ」は、だんだん何か身近になってきたなど感じます。

私は日本の中で、天地自然を相手にする場所は、かなりあるという気がします。また行きたいなと思っている場所は、屋久島です。何度か申し上げますけれども、1千年以上経たないと屋久杉とは言わない。そう簡単に倒れないような、根を張れる土壌を持つ地域が屋久島。1千年未満の杉は若杉。まだ子供の杉という言い方を屋久島ではしておりました。

コスタリカに行った時は、土壌が浅いから大木でも倒れてしまいます。2~300年の木なんかありません。100年経つともうひっくり返るそうです。100年経ったらひっくり返る土壌の天地自然と、何千年も生き永らえる土壌を持つ屋久島。

日本の国とは、やっぱり物の考え方や生活態度は変わってきて当たり前だと思います。それで天地自然と考えると四季がある日本だから、良い国に生まれたなど感じます。

終了に致します。有難うございます。